

第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会 会議録

開催日時：平成27年7月30日（木）午後3時～5時30分

開催場所：安芸高田市民文化センター

（クリスタルアージュ4階小ホール）

出席者	<p>■懇話会委員（敬称略）</p> <p>久保野哲也 安芸高田市まちづくり委員会 正田 建二 安芸高田市まちづくり委員会 前田 奈実 子育てサークル 宮崎 絵美 地域おこし協力隊 吉長 成恭 広島国際大学 高崎 義幸 広島修道大学 毛利 洋二 広島北部農業協同組合 岸本 勇示 安芸北森林組合 今屋えい子 安芸高田市商工会 山崎 敏晴 安芸高田市工業会 小田 忠 （公財）安芸高田市地域振興事業団 益田 茂樹 （社福）安芸高田市社会福祉協議会 住田 希 安芸高田市観光協会 中田 幸子 安芸高田市ふるさと応援の会</p> <p>■事務局</p> <p>武岡 隆文 企画振興部長 河本 圭司 企画振興部 財政課長 村田 栄二 企画振興部 財政課特命担当課長 聖川 学 企画振興部 財政課 経営管理係長 塚本 真樹 企画振興部 財政課 経営管理係 専門員</p>
欠席者	<p>■懇話会委員（敬称略）</p> <p>藤本 悦志 安芸高田市PTA連合会</p>
傍聴者	2人
会議次第 及び資料	<p>会議次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 <p>(1) 安芸高田市人口ビジョン（案）及び安芸高田市総合戦略骨子（案）について 【資料1】【資料2】</p> <p>(2) その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 事務連絡 5. 閉 会 <p>【資料】</p> <p>資料1：安芸高田市人口ビジョン（案） 資料2：安芸高田市総合戦略骨子（案）</p>

会 議 概 要

事務局	<p>1. 開会</p> <p>皆様方におかれましては、本日はご多忙の中、ご出席いただきありがとうございました。</p> <p>ご案内しました時間がまいりましたので、只今から、第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会を開会いたします。</p> <p>本日の会議は、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>最初に、開会にあたりまして、吉長会長よりご挨拶をいただきたいと思ひます。</p>
会 長	<p>2. 会長挨拶</p> <p>改めまして皆さんこんにちは。また、お忙しいところ万障繰り合わせてご参加いただきありがとうございます。</p> <p>本日は、第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会ということで、懇話会となっていますし、私の希望で机の間に穴が開かないようにきちっと島のようになっています。自由な意見を出していただけるようなレイアウトにお願いしました。</p> <p>今回の第2回の位置づけは、いよいよワーキンググループや本部会議が何回か開催されていまして、皆さんのお手元にお配りしている資料は145の施策について全部洗い出してもらっています。今回はそれに基づいて進めていただき、皆さんに是非忌憚のないご意見を出していただくことを期待しています。</p> <p>この後、最終的には9月中旬を目途に3回目を、これは最終になりますが、ほぼ完全に近いものを皆さんと協議し、さらにブラッシュアップをしていく流れになっていまして、今日の第2回は思う存分お話を皆さんからお聞きしたいと思ひますので、ご協力をお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは協議事項に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事前に送付させていただきました「安芸高田市人口ビジョン（案）」と「安芸高田市総合戦略骨子（案）」でございます。</p> <p>お持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それと、前回の第1回の会議録につきましては、欠席された方にお送りすると同時に、市のホームページにて公表させていただいておりますので、ご確認をいただきたいと思ひます。</p>
事務局	<p>3. 協議事項</p> <p>それでは、協議事項に入りますが、懇話会の要綱により、会議の議長は会長となっておりますので、これからの進行については、会長にお願いしたいと思ひます。</p> <p>会長よろしくお願ひいたします。</p>
会 長	<p>(1) 安芸高田市人口ビジョン（案）及び安芸高田市総合戦略骨子（案）について 【資料1】【資料2】</p> <p>それでは、本日の協議事項は1つです。「安芸高田市人口ビジョン（案）及び安芸高田市総合戦略骨子（案）について」を議題といたします。</p> <p>早速、事務局から資料に基づいて説明をしていただきます。その後で皆さんからの質疑をお受けしたいと思ひますのでよろしくお願ひします。</p>

事務局	<p>それでは説明をさせていただきます。まず最初に、安芸高田市人口ビジョン（案）を説明させていただきます。1 ページをめくっていただいて、「人口ビジョンの位置づけ」として、人口の現状分析を行い、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すもので、基本となる第2次総合計画で設定されている2019年28,500人、2024年27,500人を踏襲し策定しました。次に、「対象期間」は45年後の2060年としています。3.「国の長期ビジョン」とのかかわりですが、国の長期ビジョンと同様に、安芸高田市のビジョンも今後の人口の変化が地域に与える影響の分析・考察・目指すべき将来の方向等を提示していくこととします。</p> <p>2 ページをお願いします。4.「人口動向分析」。4-1 人口動向分析（1）人口の現状。安芸高田市の人口ピラミッドは、全国と比較して大学進学等の影響により20～24歳人口が極端に少なくなっています。全国のひょうたん型と比較して、安芸高田市は団塊の世代と昭和1ケタ生まれの女性が多く、団塊ジュニアの山が小さいのが特徴です。これらの若年層の減少が、今後の人口減少を加速させるひとつの要因と予測されます。</p> <p>3 ページに移りまして、（2）総人口の推移。1975年以降、人口減少が続いています。高齢化率は着実に増加し2000年には30%を超え、5年ごと約3%のペースで増加しています。人口減少は1995年以降強まり、人口減少と少子高齢化が進行しています。</p> <p>4 ページに移りまして、（3）年齢3区分別人口の推移。生産年齢人口も1975年以降減少が続き、2010年までの35年間で約30%減少しています。年少人口も同様で、1985年には老年人口を下回っています。一方の老年人口は、平均寿命が延びたことなどから増加を続け、2010年には11,000人を超えました。2000年には生産年齢人口と老年人口との差が約9千人ありましたが、10年で6千人まで縮まっています。</p> <p>5 ページに移りまして、（4）自然動態の推移。出生数は、生産年齢人口の減少により1980年以降減少傾向で、2013年には半数以下となっています。一方で、死亡数は大きな変化はみられませんが、老年人口が増加してきており、今後も増加が見込まれます。このようなことから、自然増減については1980年から2005年にかけて自然減少が大きく拡大し、年間240～360人程度の減少が続いています。</p> <p>6 ページに移ります。（5）社会動態の推移。社会増減については、1995年以降、社会減が拡大しています。2013年の転出入の県内外内訳をみると、県内が転入が約63%、転出が69%で、比較的近距離の移動が多くを占めています。</p> <p>7 ページからは自然増減の分析です。（1）合計特殊出生率。出生率は2002年までは減少傾向でしたが、2003年以降は増加傾向で、現在1.66となっています。しかし、5ページにありましたように出生数は増えていないことから、出生率の増加は、ベースの出産年齢人口の減少が影響していると思われます。</p> <p>8 ページに移ります。（2）婚姻率。未婚率は近年増加傾向で、出生率の高かった1990年頃と比較すると若年層の未婚率が高くなっています。この若年層の未婚率の上昇が、出生率が増加しても出生数が増加しない原因の一つと考えられます。</p> <p>9 ページの（3）子どもの数。夫婦のいる世帯は7,363世帯で、そのうち半数の3,713世帯は子どもがいる世帯、さらに1,956世帯が18歳未満の子どもがいる世帯です。図の4-8子どもの数別世帯数という横に伸びた表がありますが、1,956世帯は左端の3,650と右側の1,757を除いた内側の549と901と434と72を足した数です。この1,956世帯の内訳は、子ども1人の世帯が約28%の549世帯、子ども2人世帯が最も多い約46%の</p>
-----	---

901世帯、子ども3人の世帯が約22%の434世帯、4人以上は約4%の72世帯となっています。また、子どものいない世帯は全体の世帯数から見て49.6%と高い数値を示しています。

10ページに移ります。10ページからは社会増減の分析です。(1)性別・年齢階級別の人口移動の状況。安芸高田市の特徴として、10～14歳が15～19歳及び15～19歳が20～24歳に移行するときに大幅な転出超過となっていますが、一方で、20～24歳が25～29歳に移行するときは転入超過となっています。その増加数は、前の世代の転出超過を補うほどの転入にはなっていません。これは、進学に伴う転出に比べ、大学卒業後のUIターン就職に伴う転入数が少ないことが原因と考えられます。

11ページの(2)性別・年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向。男性の動向は図4-11にありますように1980年代からずっと続いており、転入と転出の差は238～398人の転出超過となっており、長年、若者男性が流出していることとなっています。次のページの女性の動向も同様で、長年269～481人の流出が続いています。

13ページに移りまして、(3)人口移動の最近の状況。男性は、県内転出入が多く、転出の7割近くは県内です。出入りの差も、県内で120人程度の転出超過です。女性も県内が多く7割を超えています。出入りの差も140人程度の転出超過です。

14ページに移りまして、(4)県内市町への人口移動の最近の状況。隣接する広島市への流出が顕著で、2009年以降、年間200人を超えており、人口減少対策と広島市への流出を抑えることが課題となります。15ページからは、年ごとの市町への出入りの差を矢印で示した図です。広島市へ毎年、大きな矢印で2百数人の移動がみられることがここで見て取れます。

18ページに移ります。18ページは雇用や就労等に関する分析です。(1)男女別産業人口の状況では、男性は製造業、農業、建設業の順に就業者が多く、女性は、医療、福祉、農業、製造業の順に多くなっています。特化係数(全国の就業者との比較)をみると、農業について男女とも高い比率を示しています。

19ページ、年齢階級別人口の状況。高い比率の農業の男性は、約8割が60歳以上、30歳以下は1割に満たない状況です。そのほかにも、高齢化率の高い業種は、宿泊業、飲食サービス、運輸業・郵便業です。一方で、若齢層が多い業種は医療、福祉となっており、次いで卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業の男性となっています。

20ページからは「将来人口の推計と分析」です。国立社会保障・人口問題研究所の人口推計が21ページにあります。これをみると人口は減少を続け、2010年を基準とした時、2040年には20,831人(約66%)、2060年には14,820人(約47%)と推計されています。老年人口は2015年11,636人で上昇は止まります。一方、0～14歳の年少人口、15～64歳の生産年齢人口は減少を続け、2060年には年少人口は1,198人(約34%)、生産年齢人口は6,657人(約39%)と推測されています。

22ページの総人口・年齢区分別人口割合の推計では、高齢化率が2060年47%、後期高齢者の割合は33.9%と上昇を続けます。2040年には生産年齢人口を高齢者人口が上回ることが予測されています。

23ページの人口の変化が地域の将来に与える影響の分析ですが、今、説明しましたように人口減少が続き高齢化も進む状況で、中段にある(1)(2)のような影響が予測されます。(1)の財政状況への影響では、各種の税収が大きく減少し、公共施設は住民の減少

により利用者が少なくなり余剰施設が多くなります。しかし、公共施設の維持管理費は廃止や縮小をしない限り一定量必要となります。(2) の生活への影響は、学校の維持管理に大きな影響を与え、学校規模適正化は喫緊の課題といえます。

24 ページからは、これまで説明した人口推計値に人口動向、出生率が上昇した仮定値や社会動向、転出人口が減少した場合などを組み合わせた推計を載せています。後ほどご確認をいただきたいと思います。

35 ページをお願いします。35 ページの「人口の将来展望」。6-1 目指すべき将来の方向
(1) 現状と課題の整理。安芸高田市では 1975 年以降、人口減少が続いています。人口減少の進展は大きく 3 段階に分かれ、第 1 段階では若年人口は減少するが老年人口は増加する時期、第 2 段階は若年人口の減少が加速し老年人口も減少が始まる。第 3 段階は若年人口の減少が一層加速し、老年人口も減少すると区分されています。安芸高田市は現在、第 2 段階への移行期に入っており、2025 年頃から第 3 段階に入っていくと予測されています。自然増減の現状と課題は今まで説明しましたように、1985 年以降、死亡数が出生数を上回り、出生数は 200 人弱で推移しているものの、出生率は出産年齢女性の減少で上昇しているが 1.66 とあまり高い数値ではありません。女性の婚姻率を高め、出生率を向上させることが課題となっています。社会増減の現状と課題も 1975 年以降、若者の転出超過による減少が長年続いており、UI ターンを拡大することや、近隣の広島市への転出割合が高い比率であることをどうやって抑止するかが課題となっています。

36 ページをお願いします。(2) 基本姿勢。現状と課題をふまえ、昨年策定した第 2 次安芸高田市総合計画に沿って施策を推進します。①人が集い育つまちづくりへの挑戦、②安心して暮らせるまちづくりへの挑戦、③地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦です。

37 ページの (3) 目指すべき将来の方向です。

①移動率を改善する。転出を抑え、転入の促進を図るため、年代に応じた移動率改善に必要な対策を進める。

②出生率向上のための対策に取り組む。この町に住み、結婚や出産をしたいという希望を阻害する要因を取り除き、子どもを産み育てたいと思う環境づくりや機会づくりに積極的に取り組む。

③長期的かつ総合的な視点から有効な施策・事業を迅速に実施する。人口の減少に関わる課題は喫緊の対策が必要ですが、子育て支援、産業・雇用、高齢者の社会参加等、持続可能なまちづくりを目指した総合的な取組が必要である。

④選択と集中の考え方を徹底する。地域特性をふまえ、最も有効な方策を絞り、投資と施策を集中させる必要がある。

⑤高齢者が活躍できる社会づくりに強力的に取り組む。生産年齢人口の減少が避けられないことから、地域活力を維持していくため、高齢者がより一層活躍できる社会づくりに取り組む。以上 5 点を将来の方向と定めていきます。

38 ページに移ります。「人口の将来展望」。38 ページは第 2 次総合計画の目標人口設定時のもので、出生率、移動率は条件を現状のまま変化しないと仮定し、UI ターンによつての人口増のみを勘案し、2019 年に 28,500 人、2024 年に 27,500 人と目標人口を設定しています。

39 ページでは、今回、新たに現状値に出生率や移動率の仮定値を加えて設定したものです。条件として、出生率を 1.8、移動率を 10～19 歳の移動を 30%改善、UI ターンに

については、年4組の30歳代前半夫婦が4歳以下の子どもをつれてUIターン、年4組の20歳代夫婦のUIターン、年4組の60歳代前半夫婦のUIターンで、年間12組のUIターンを設定しました。この推計で行くと、2060年に18,932人で社人研の推計より約4,100人多く、年少人口は、2010年ベースで2040年24.6%減となり、社人研の48.6%の推計に比べて半分に抑えることができます。生産年齢人口も社人研の推計より約9%改善されます。この目標設定した数値を長期のビジョンとし、次に説明します総合戦略によって平成31年までの施策を推進して行くこととなります。

ここまでが人口ビジョンの説明です。

続きまして、総合戦略の骨子について説明させていただきます。この骨子につきましては、各部署で総合計画の施策を基に、それぞれ個表を作成し、現時点で取りまとめたものです。

まず、1ページ。1.「基本的な考え方」ですが、策定の背景として今年3月に策定された第2次安芸高田市総合計画の将来像である「人がつながる田園都市安芸高田」の実現に向けて、3つの都市像を掲げまちづくりへの挑戦を進めているところです。3つの挑戦の次に書いておりますように、将来像の実現のためには、人口減少の歯止め対策と、少子高齢化対策が必要不可欠であること、また(2)総合戦略の策定にありますように、国の通知・政策に基づき、人口ビジョンとこれを踏まえた今後5年間の目標や施策の基本的方向、具体的施策を定めた「安芸高田市総合戦略」を策定するものであります。

次のページの(3)総合計画等と地方版総合戦略との関係ですが、□の最初の5～6行目に書かれているとおり、それぞれ本来は目的が違うもので、総合戦略は総合計画等とは別に策定するのが原則です。ただし、総合計画見直しの際、地方版総合戦略としての内容を備えているような場合には、総合計画と総合戦略を一つのものとして策定することは可能であり、本市の3月に策定した総合計画も、地方創生の視点を基本構想に盛り込むなど、記載内容は概ね合致したものとなっております。しかし、個別の施策に係る指標の設定までは行われておりませんので、改めて総合計画とは別に総合戦略を策定することとします。

3ページに移ります。ここからは、「特に考慮すべき人口の現状」を掲載しております。ここから少しの間は、先ほどの人口ビジョンと重複したものになりますのでご了承ください。(1)人口減少とその要因にありますように、人口減少の特徴として、安芸高田市では1975年以降人口減少が続き、35年間で生産年齢人口は3割減、年少人口は5割減少している。逆に65歳以上の老年人口は9割増加ということで、高齢化・少子化が確実に進行している状況にあります。

4ページ上段に自然減の要因とありますが、出生率は10年間増加傾向にあり、5年平均では1.66となっております。これは全国や広島県と比べると高いレベルにあります。一方で、未婚率は増加傾向で、女性では25～29歳が5割を超え、30～34歳が3割超えとなっております。未婚率の上昇が、出生率は増加するものの出生数が増加しない原因となっております。

次の5ページ、社会減の要因とありますが、社会減で最も顕著なのは、10～19歳の世代が次の5歳階級世代に移行するときの転出超過。要するに、高校、大学進学、就職等に伴う転出があり、この傾向が1980年以降続いております。逆に20～24歳、25～29歳の

移行期にU I ターンなどによる転入のピークが見られますが、社会減をカバーするには至っていない状況にあります。

6 ページ (2) 人口の現状分析から見た安芸高田市の課題として、①～④に整理をしています。①自然減、社会減対策の両輪が必要ということで、自然減と社会減が同時に進行していることから、バランスの取れた人口減対策を推進するには、自然減、社会減両方の側面からの実効性の高い施策の検討が必要なこと。

次の②婚姻率と出生率を高めるとありますが、年少人口の減少が特に顕著であり、中長期的には市の活力を直接担う生産年齢人口を維持していくうえでも喫緊の対策が求められます。婚姻率と出生率の向上には、結婚・出産・子育てに関する支援、仕事と生活の調和、雇用を含めた経済的安定性が挙げられます。

③若者の流出を抑える。これについては、10～19 歳の若者の転出超過が長期にわたって突出しており、地域の活性化に大きな影響を及ぼしていますので、転出の主な理由である進学と就職に対して、若者のニーズを満たし、定着・定住の向上を実現する喫緊の対策が求められています。

④U I ターンの促進ですが、25 歳以降の生産年齢世代の転入の動きが見受けられることから、この動きを活性化させるため安芸高田市の魅力を高め、雇用や定住などU I ターンを促進する施策の展開が求められています。

これらのことから、矢印の下の部分にまとめとして書いておりますように、総合計画を基本として、婚姻率の向上、出生率の向上、流出抑止、定住促進、移住促進など、人口減少に歯止めをかける戦略策定とその実施が喫緊の課題となっております。

次に「安芸高田市が目指す姿」として、8 ページをお開きいただくと目標人口を掲載しています。これは、3 月に策定された総合計画に掲載されているものですが、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、10 年後の安芸高田市の人口は 26,326 人となっています。この推計を基に、目標人口としてはプラス 1,200 人の 27,500 人と設定されています。

次の 9 ページには、その目標人口の実現に向けた方策と目指す将来人口の姿とありますが、総合計画で設定された目標人口 27,500 人を達成するため、①設定条件の考え方として、2 つ目の○にありますように、自然減の抑止として「婚姻率を高め出生率の向上」、社会減の抑止として「若者の転出超過の減少」、「生産年齢人口のU I ターン等による移住の促進」に着目した設定を行います。

②出生率の設定としては、現状は 1.66、過去 30 年間の最大は 1.96 という現状の中、国の中長期展望で国民の希望が実現した場合の出生率として 1.80 が設定されていることから、安芸高田市においても出生率 1.80 を目標に設定します。

③若者流出抑止の設定としては、若い世代については、長期間にわたって 200 人前後の転出超過が続いていることから、設定として 10～19 歳の移動改善率 30%を目標とします。

④U I ターン促進の設定として、総合計画にも計画されておりましたが、U I ターンの世帯数として一番下に書かれているとおり、各世代で年 4 組のU I ターンを目標に設定します。総合計画では、出生率や転出等移動率は勘案されておりましたが年 16 組となっておりましたが、総合戦略では、出生率、移動改善率と併せて方策を行うため年 4 組と設定します。

こういった設定でそれぞれ改善された場合には、総合計画にうたった目標人口をクリア

することとなります。

次の 11 ページから、「総合戦略の基本目標と具体的施策」を記載しています。(1) 基本理念として 4 行目からになりますが、総合戦略は、課題を実現するための必要な具体的施策について、総合計画で体系化された施策との整合を図り策定します。策定にあたっては、国が進める総合戦略の基本目標、4 つ基本目標を国が掲げている訳ですが、これとの対応を図り、総合計画の 4 つのリーディングプロジェクト（重点項目）を基本として策定します。基本目標とリーディングプロジェクトとの関係については、下の表 4-1 にありますように、縦軸に 4 つのリーディングプロジェクト、横軸に国の 4 つの基本目標を記述し、分野横断的に取り組みを進めるための整理をしております。

12 ページから 15 ページまでについては、それぞれ各部署から挙げた施策が体系的にどこに属しているかを示しています。現時点で、総合計画に記載されている全 145 項目を全て当てはめています。

次の 16 ページで総合戦略のリーディングプロジェクトに組み込まれた具体的施策が、平成 31 年までの数値目標であること、また、施策や事業を PDCA サイクルで検証し、必要に応じて改訂を行うことを記述しています。

17 ページから 72 ページまでは、それぞれ 4 つのプロジェクト及び施策の区分ごとに提出のあった施策の個表を張り付けています。重要業績評価指標（KPI）については、現時点で検討中のものもあります。プロジェクトごとに見ていただくと、まず、17 ページ「若者定住促進強化プロジェクト」。基本目標は、若者を中心とする働く場、住む場、子育ての場の整備を総合的に進めることで、転入者と出生数の増加を図るとともに、転出者を極力抑制することにより人口の減少に歯止めをかける取り組みです。目標指標は、総人口 H31 年に 28,500 人、UI ターン年間 12 組、若者の移動率 30%改善、出生率 1.80 と設定しています。講ずべき施策に関する基本方向として、①働く場を整える。主要施策としてそこに記載の 4 施策、参考として H27 年度の主な事業を掲載しています。同じく 18 ページ②住む場を整える、③育てる場を整える。それぞれ主要施策や本年度の主な事業を記載しています。

2 つ目のプロジェクトが 36 ページにあります。36 ページをお願いします。「地域経済の好循環推進プロジェクト」。基本目標は、農産物等を中心とする生産基盤の強化と地元での購買意識を喚起することによる地産地消サイクルの構築、観光や 6 次産業化等による外貨獲得の推進を通じて、地元経済の好循環・拡大を目指す取り組みです。目標指標は、総生産額を H31 年に年間 1,200 億円、一人あたりの観光消費額を年間 1,353 円。講ずべき施策に関する基本方向は①地産地消サイクルを回す、②外貨を獲得する。主要施策、主な事業は記載のとおりです。

3 つ目のプロジェクトは 45 ページになります。「次代を切り拓く青少年育成プロジェクト」。基本目標は、安芸高田市の全ての青少年に確かな学力、豊かな人間性、健康・体力といったいわゆる知・徳・体のバランスのとれた生きる力を育む取り組みです。目標指標は、将来に夢や目標を持っている小中学生の割合 95%、安芸高田市に住みたい・戻ってきたいと思う中高生の割合 65%。講ずべき施策に関する基本方向は①生きる力を育む、②学ぶ場をつなぐ。主要施策、主な事業は記載のとおりです。

最後の 4 つ目のプロジェクトですが 60 ページになります。「コミュニティ活動の高度化プロジェクト」。住民自らの手で地域の安心を守り、その地域ならではの楽しみを創造し

	<p>ていくとともに、地域内外の多様な人とのつながりを構築していくことで、コミュニティ活動の更なる高度化を目指す取り組みです。目標指標は、ずっと住み続けたいと思う市民の割合 55%、協働のまちづくりに関心のある 20~30 代の割合 30%、協働のまちづくりに関心のある女性の割合 30%。講ずべき施策に関する基本方向は①地域の安全・安心を守る、②地域ならではの楽しみを創造する、③多様な人につながる。主要施策、主な事業は記載のとおりです。</p> <p>それぞれのプロジェクトの基本目標等の続きには、プロジェクトを構成する「具体的施策」の個表を張り付けています。個表には、「具体的施策名」、「主な取り組み」、「担当部署」、「重要業績評価指標 (KPI)」で構成しています。総合計画に掲載の施策が総合戦略にも掲載されておりますので、「総合計画との違いは何か？」ということになるかと思いますが、大きな違いは、具体的施策ごとに重要業績評価指標 (K P I) を設定し、P D C A サイクルにより目標管理を行っていくことが、総合計画との違いになるかと思います。</p> <p>以上で総合戦略骨子 (案) の説明を終わります</p>
会 長	<p>ありがとうございました。資料 1・2 について説明していただきました。ただ今の説明に対しまして、皆さんから質疑をお願いしたいと思います。</p> <p>沢山ありまして、各施策についてはもう少し協議してまいります。お気づきの点があればそのところからでも結構ですし、それ以外にこのとりまとめに関しては、先ほど申しましたように、役所内での各担当課の皆さんにしっかり見ていただいているわけですが、役所の中からの見た施策に対する整理ですので、むしろこの懇話会の皆さん方の立場から、役所の外からの視点でお話いただけたらと思います。ご発言をお願いします。</p>
委 員	<p>企業誘致というのは、自分の子ども達が働く場を確保するために興味があるのですが、実際に大きな企業を誘致する予定があるのでしょうか。</p>
事務局	<p>雇用の場の確保ということは、どの世代にとっても非常に大切な事だと思いますし、また生活していくうえで収入を得るということは必要不可欠な要素です。安芸高田市としても、この間、企業誘致に鋭意取り組んでまいりました。その結果として田中電機工業をはじめ、数社の優良企業にも本市に来ていただいております。</p> <p>ただ、先程委員が言われた大きな雇用を伴う大企業の誘致については、私どもも委員と同じ思いではございますが、今日の社会経済情勢を考えますと、現実的には中々厳しいと思います。</p> <p>反面、安芸高田市には多くの空き家や空き施設があります。今日では情報化が進み、IT 環境さえ整っていれば、場所を選ばずに事業活動が可能な IT 関連企業等も多くあります。小さな雇用の積み上げにはなりますが、移住・定住を促進する観点からも、こうした空き家等を活用したサテライト・オフィスの誘致にも現在力を注いでいるところでございます。</p>
委 員	<p>ありがとうございます。今のような具体的な話を聞けて、ちょっと目の前が明るく開けます。そのように向けていくのであれば、小学校ぐらいから無料で習えたりとかプロフェッショナルを育てるようなことに取り組んでもらえたら、光るものを持っている子どもが現れるのではないかと今考えました。あと、大学で安芸高田市を離れる現実があるのですが、中高一貫学校、エリート学校をつくってはどうか。日本のトップレベルの学校があれば、安芸高田市自体がレベルアップするのではないかと、また、保育園・小学校に特色が無い、ここの町で育てたいとわざわざよそから来てここで育ててみたいというものが今のと</p>

	<p>ころ感じられないというのが私の意見です。新聞を読むと、そろばんを教えていますとか、マンパワーを使って学習塾を学校内で開いていますとか、学力向上のためのアイデアが転がっているのですが、安芸高田市では聞かないなど残念なところでは。</p> <p>あとは、3人目から無料という良い話題としてよく聞くのですが、今の人口のグラフを見ると、1人目から無料でいいのではないかという気がします。小学生に上がるまで月々3万・4万・5万とか払って保育所に預けているのですが、それが負担なのですが、人口の中のほんのちょっぴりの6歳児までをもうちょっと皆で支えてもらえたら、3人目も作っていいかなと思ったりすると思います。あと、不妊治療全額出ますと三次市でありましたが、それもすごく取り入れてほしいという願いが聞かれました。</p> <p>また、小さなことですが全部言わせてもらいますと、子ども服を買うところが無い。休日に雨が降ると子どもを遊ばせるところが無い。土師ダムに一つ大きな公園ができましたが、そちらに行くか世羅に行くか三次に行くか小1時間かけてみんな公園をめぐるかっこうで、今、近所にジャングルジムがある公園があるか聞いたらほとんど皆さん見た覚えがないと言われます。公園が無くて子ども同士が繋がれない現実があります。あと、公民館が一回潰れたら次ができないということもあって、活動拠点になる場所が無く残念だという声がありました。</p>
<p>会 長</p>	<p>いくつかあって、子育ての支援でわかりやすく具体的にこういうものが施策になっていたらいいなという貴重な意見だと思います。店舗はビジネスなので、人が集まるところに出店することになるでしょうが。</p> <p>中高一貫校の話もありましたが、こちらの義務教育レベルでは小中一貫教育というのはどうなっていましたでしょうか。小中は自治体の義務教育ですので、よく広島県内の他の市町では教科用図書の選定で4年に1回ぐらい変えている時に、小中一貫教育は、建屋は別々なのですが、一つの方法として教科書を小中一貫教育を目指して選定して行こうというもので、その目的の一つは郷土愛を育むという考え方です。そういう意味で、こちらの教育委員会の施策は何番にありますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>47 ページになります。施策番号 24 の確かな学力の向上の中の ICT 機器の積極的に活用といった視点や、以降に記載のある国際教育の推進、豊かな心の育成等々、本市の今後の教育の方向性や具体的な取り組みを掲げております。</p> <p>保育所につきましては、幼保一元化ということで保育所と幼稚園を一体化した認定子ども園の整備を、老朽化した保育所の建て替えと併せて推進していくこととしております。</p> <p>とりわけ、本年度から民間移管しました向原こぼと園においては特色のある保育サービスの中に、例えばお泊り体験保育なども取り入れられております。公立保育所においても、こうした民間の取り組みなど特色ある保育事業を検討していく必要があると思います。</p> <p>いずれにしても、安芸高田市で子育てしてみたいと思えるような特色ある教育や保育については委員と同様に検討が必要と思います。</p> <p>それと保育料の無料化につきましては、本年度から3人目以降の児童に係る保育料を無料化したところでは。</p> <p>ご指摘のように1人目からの無料ということも検討すべき時期にあるとは思いますが、無料化に伴い約2億円の財源が新たに必要となりますので、慎重に検討しなければならないと考えます。一昨年、NTT データが移住・定住に関するアンケートを行っていますが、移住・定住施策で最も効果があるのは子育て支援策という結果が出ていますので、こうし</p>

	<p>たことも視野に入れて検討していく必要があろうと思います。</p> <p>また、不妊治療についても、三次市に限らず安芸高田市でも実施しております。これは県内各市町も一様に実施しています。子ども服については、店舗が来ていただければ良いのですが、現実的には難しいのかなと思います。</p> <p>それと、子どもを遊ばせる場が十分でないということでした。そういう声を聞く中で一昨年、土師ダムに大型遊具を備えた児童公園を整備させていただきました。</p> <p>ここの利用は大変好評でありまして、雨の日はちょっと難しいのですが、天気の良い土日などには家族連れで市内はもとより近隣の安佐北区の方からも来ていただいています。</p> <p>こうした施設を市全域に整備するのは少し難しいと思いますが、既存施設等を活用した小さな児童公園の整備については検討することも必要と思っています。</p> <p>それと子育てサークル等の活動拠点については、クリスタルアージュや既存の公民館などの公共施設等を有効活用していただく中で、子育て活動が継続できるような対応が必要と考えます。今後の子育て施策を検討するうえで、大変貴重なご意見として受け止めさせていただきます。有難うございました。</p>
<p>会 長</p>	<p>人口ビジョンと子育て支援はすごく繋がりが深い、そこにさらに雇用の話とかが繋がってくるので、今日の資料の説明にあったように大きなウエイトを占めているわけです。</p> <p>他の方どうぞ。</p>
<p>委 員</p>	<p>コミュニティ活動の高度化プロジェクトという項目に載っていますが、60 ページですが、ずっと住み続けたいと思う市民の割合が現在、平成 25 年度で 44%と書いてありまして、この数値を見ると半分の人が出ていきたいと考えておられると。これは指標が違うのではないかという気がするのですが。安全・安心な町だから住むという問題では無いのではと思います。先ほど子育ての問題とか言われましたけれど、この 44%の人は良しとして、あとの残りの人は何があったら住んでもらえるのかを言ってもらえばいいのではないのでしょうか。それと、45 ページですが、学校教育や青少年の育成プロジェクトですが、安芸高田市に住みたい・戻ってきたいと思う中高生の割合が、やっぱり半分しかいない。半分しか帰ってこないということです。結局、心の問題だと思うのですが、安芸高田市が誇りをもって私の故郷と言えるかどうかの問題だと思う。そうしたら、帰ってくるかあるいはその思いをしっかり受け止める気がします。学校教育がそれに繋がるのかと言ったらそうではないような気がします。学校教育をどんどん上げていけば良い学校へ行く、都会へ出ていく。当たり前なこと、半分は出ていくと言っている訳ですし、お父さんお母さんも半分は出そうと思っている訳ですから、残る訳がないということです。子どもがやはり故郷安芸高田市を自分の胸において、安芸高田市が語られるかどうかの問題なのだと思います。そうしていけば、全体的な若者のプロジェクトとかに響いてくるのだと思います。はっきりしたものが見えないから中途半端な気がします。さっき遊具の話がありましたが、遊具は三次に行ってもいいのではないかと。安芸高田市に何があったら良いか。三次や他に無いものを安芸高田市に作れば良いのでは。そうすると何になるのかが分かるような気がします。それと、せっかくアンケートを取っておられるので、そのアンケートで足りないものはこれというものをどんどんここに書き足したらいいのではないかと思います。個人的な意見ですが、安全・安心というのは当たり前なので、本当に自分が住んでみたい、帰ってきたい町は何なのか、平成 27 年度の主な事業があるが、その事業では確立できないような気がします。</p>

<p>会 長</p>	<p>いつだったか、都内の商店街に子育てカフェが出来ていまして、それはどういうカフェかと言いますと、子育ての人が来るカフェで、そこでは入口にいくつかのボックスがあって、自分の子どもが大きくなって使っていた服をクリーニングしたものを、何歳用と分けてあって皆がお下がりを利用する、そういったコミュニティが都内のど真ん中であって、そこには子どもが遊べるスペースがあったり、街の写真屋さんが入ってきて子どもとお母さんの家族の写真を撮ったり、保険や学資保険を説明する保険会社が来たり、墓地やお年寄り向けの情報のレクチャーがあったりと、そういうコミュニティカフェが非常に有名になって、私も行って見たのですが、大臣も来られたと言っておられましたが、何が言いたいかと言いますと、それは公共サービスではなくて民間のボランティアなどがやる、またそれがビジネスになってやっているような子育てのコミュニティがあって、そこで子育ての、ちょっと病気が流行った時に初めて子育てする人が行ったら手足口病だとか、今こういうのが流行っているよという情報が聞けて、これは公共サービスだけど市が直轄しているのでは無くて、民間の方々がビジネスとして社会的な意義があるサービスをしているという例です。つまり、子育てで繋がっている拠点が街のどこかにあるというのが例としてありました。</p> <p>また、帰ってくるときに郷土を思い何を語るかというお話ですが、そこら辺りが安芸高田市だけではなく日本全国に欠けているなというデータがあり、直接繋がっているかわかりませんが、内閣府が毎年発表している世論調査の中で、物の豊かさと心の豊かさとどちらに重点を置いていますかというアンケートがあります。近々では平成 24 年のデータがあると思いますが、それを見てもみますと、64%の人が心の豊かさの方が大事だと言っています。どの時点で物の豊かさと心の豊かさが開いたかと言いますと、昭和 54 年から急に開いてきた。この人口データを見てもらうと 1978 年（昭和 53 年）ぐらいから、そこまでは物の豊かさと心の豊かさを重視する人が同じようなレベルで来ていましたが、そこからだんだん開いて、現在は最高に開いたグラフになっています。高齢化が進んでいき少子化が進んでいくと同時に、心の方も少し渴望してきたのが見て取れます。そういう意味では一回外に出たとしても、わが町として帰ってくるとか誇りに思うとかというところも心の豊かさに関係しているのかなと、こういうことが日本の全国の市町で何をもって子ども達に自分の育った町の心の豊かさがちゃんと伝わっているのかなと思いました。子どもの豊かな心の育成と言うけれども、もっと掘り下げていく必要がある。こういうお金をつけたらこうだということも大切ですが、もっとそういう視点があるのかなという気がしました。経済成長して人口が増えているときはいいのですが、物が豊かになると逆に心の豊かさを求める人が相対的には増えていくのかなと思います。また今年度、事業所ではストレスチェックをしなければいけなくなった。50 人以上の会社は必ず職場でストレスチェックをしなさいという労基法が出ている。そこら辺りも関係しているのかなと思います。</p> <p>沢山しゃべりましたが、時間稼ぎにやっていることで、皆さんの発言を待っている訳ですから、どうぞ、自分はこう思うよという忌憚のない意見をお願いします。</p>
<p>委 員</p>	<p>空き家対策で、来ていただくという活動は良いのですが、それをやっていく段階において、うちの方でも事例があるのですが、街から田舎の家へぼんと来るとギャップがある。新しく入られた方が行政区の行事に参加しない、地区でのゴミ拾いにも出て来ない。それをフォローするという事を市の方でやるのかどこがやるのか。地区との摩擦が色んな面出ている。そういうところを考えると、市が斡旋する場合には、そのところをフ</p>

	<p>オローする事を考えてやらないと、せっかく入ってこられても面白くないと思う。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。空き家対策も全国的な課題です。</p>
事務局	<p>今年 4 月から、市では 6 人の地域おこし協力隊を採用しておりますが、その内の 1 人を住宅政策課に空き家コンシェルジュとして配置しております。今ご意見いただいたように、移住して地域に入って生活をしていく上では、地域の行事などへの関わりが出てきますが、地域に早く溶け込んで地域の皆さんと良い関係をつくるために、この空き家コンシェルジュが移住者と地域との中持ちを空き家の斡旋と併せて行っています。</p> <p>しかし、一方で移住・定住を希望される方の中には、外部との関わりをあまり好まずに、静かなところで生活したいという思いの方もおられることも事実ですので、そこをうまく取り持っていくことも非常に大切と考えています。いずれにしてもお互いが理解しながら、安芸高田市への移住・定住につながればと考えています。</p>
会 長	<p>口を挟みますけれど、具体的な例を皆さんにお話しますと、空き家対策の事ですが、個人情報のあるので関わりのないレベルでお話しますが、北広島町で役所の皆さんとお話したのですが、市がやりますと入ってくる人は断れない。人口を増やしたいので誰でも入って下さいという事になる。ところが民間がやりますと、たとえば、解体作業をしているうちに空き家があって勿体ないと建設会社の社長さんが自分なりの空き家バンクを持っている。それで東京にいる人を自分のリストに挙げてネットワークができる。若い人が入りたいということで、芸術家とか入っているのです。そういう人たちが入るときに、建設会社の社長が面接し、本当にその地域で、北広島町の何々という集落のこの家を気に入ったということになると、地域にいる神楽団とか若い人達と面接して、顔繋ぎをする、いわゆる仲人をするんです。やっていけるかと両方に、受け入れるコミュニティと入ってきたい東京からの I,U,J ターンの人に、やっていけそうということであれば、家主さんに相談していくらで貸す。家賃は固定資産税がいくらだからこれぐらいで良いよという感じで貸していく。そうしたら 2 日目にはそこに入った若い人から社長に電話連絡があり、玄関になすびとキュウリが置いてあるがどうしたものかと。こういう相談がある。それは食べて良いよ。近所の人、引っ越して間もないので大変だろうからと置いてくれたんだと。そういうものよ、その地域はと。その若い人は、今度は自分の友達から移住の相談話があったらまた連れてきて、少しずつ増えている。何があるかということその地域には何も無いわけで、観光地でも何でも無い。その地域の絆みたいなものが醸成されていく。お互いに民間の人のお世話で、ボランティア活動なのですが、成果を上げている。ところが、市がやりますと来る者を拒んではいけないが、民間の人がやると、地元の人と折り合いの良し悪しを事前に査定することができる。そういうやり手の人が I ターン、U ターンを成功させている。私の近所にマンションができるのですが、町内会費が繋がらない。マンションには管理組合があるものですから、そこでしゃんしゃんと終わっている。でも、私の住まいは、資源ごみの日以外に有価資源として別の日に、ペットボトルとか缶とか新聞とかを出して、それを町内会費に充てるようなシステムにしています。広島市は全部分別ゴミに厳しいのですが、違う曜日に 2 週間に 1 回。それを例えば夜回りのカチカチするおじさんのビール代になっていくわけですね。地域は地域でそういうことをやっている。もともと助け合いが中山間地ではあったわけですが、しかし新しい方が入ることでコミュニティがうまく成立しなくなる。そこで行政がどんどん介入してやったら良いかということそういうわけにはいかない。やはり、地域でもって官民協働でやっていかないとコミュニテ</p>

	<p>ィに馴染めない人が来たり、中には北広島町の例でも、安佐北区から私ぐらいの人が定年になったのでひっそりとログハウスを建てて住みたいと、週末に来て 2 つの地域で居住していく、地方創生にもそのことが書いてありますが、そういうときに近所とは交流を持ちたくない、そこで週末暮らして出たゴミも自分の車に積んで安佐北区の自分の住んでいるところのゴミに出すからいいと、そういう人もいらっしゃる。だから、そういう人を受け入れるかどうかはまた別として、ケースバイケースあるのですが、民の力はこういったときに発揮できるわけです。これを総合戦略に記載できるかといったらなかなか書けないかもしれない。隣の町を事例として紹介しました。</p>
委員	<p>私は、今年の 4 月から安芸高田市に来まして、大学は庄原でしたので広島にまったく縁が無かったわけではないのですが、ある人から生まれ育ったところでも無いのに、よく町づくりできるねと言われるのですが、私自身、街よりも田舎・自然に魅力があってこちらに来たというのがありまして、この子ども達が一旦進学のために外に出たとしても、幼少時代に過ごした自然の中で育った事が心に残っていれば、それが心の豊かさに繋がり、また、U ターンとして帰ってくると思います。教育面で、確かに高学な学力のシステムが重要とは思いますが、地域の伝統的な文化とか、ホタル籠を地域の方に教えてもらいながら作ったのですが、それは安芸高田市周辺のもので、ホタル籠はプラスチックでできたものしかなかったのですが、藁で作らせてもらって、その地域の方は小学生に教えているということで、本当に地域独特の伝統文化を教育に取り込めるところもあるのだと思い、そこはすごい魅力があるところだと思いました。また、自然豊かなのですが、友人・知人をこちらに呼んだときに、交通の面や宿泊の面が整備されていないと感じました。観光を施策で力を入れていきたいということですが、芸備線が通って急行が向原と甲立駅に止まりますが、その周りがまったく整備されていないので、広島市は外国の方が多いため、広島市から外国人の観光客や日本人の観光客を呼ぶにしても、芸備線を使って駅周辺を整えないと、なかなか町から人が来ないのではないかとというのが正直あります。今、小原地区で小原創生プロジェクトを進めている方がいまして、その会議に参加させていただいているのですが、いっぺんに各駅を整備するのは難しいので、ひとつモデルケースとして、市も協力してやって、どれぐらいの人が来てどれぐらい安芸高田市に影響があるかを試験的にやるのも良いのではないかと考えています。青春 18 切符が年に 3 回発売されて、本当に電車好きな人が、特に芸備線はワンマンカーとか車窓から見る自然もきれいなので、観光面に力を入れるようでしたら、駅周辺も考慮に入れていただきたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ちょうど 100 周年になるのですかね。芸備線は、芸備線 100 周年で広島から三次にずっと箱庭的な車窓の風景は良いですよ。それから、三次からの三江線は、雑学で思うのですが、戦後開通した最初の鉄道なんですよ。芸備線から三江線に抜けるのは、これから心の豊かなツーリズムで、結構いいインフラかもしれません。ただ、これは地域の方々の、例えば無人駅だとそこに子育て支援のボランティアの人が入ったりとか、猫の駅長さんを作ったりという活性化のアイデアは、地域のコミュニティが担うところが多いかもしれません。どれくらい行政が支援できるかというところでしょうが、大事な交通インフラだと思います。</p>

事務局	<p>ご意見いただきありがとうございます。まさにかねてから芸備線の活性化、あるいは三江線の活性化・利用促進ということで、市も関係市町と協議会を組織して、この間様々な取り組みをしているところです。</p> <p>一方で、昭和 30 年代以降は自家用車が普及して、鉄道の特にローカル路線は利用者が激減してきております。路線の廃止ということも取りざたされる中で、私どもはその線路を守っていくことが行政に課された主要命題と考えています。</p> <p>そのためには沿線住民だけでなく、市民全体で芸備線あるいは三江線に乗っていただき利用客の減少に歯止めをかけることが必要不可欠ですし、今回の芸備線 100 周年記念イベントにも沿線住民の皆様と連携して取り組んだところでございます</p> <p>先ほどのお話しは、小原地域の小さな拠点づくり事業におけるプロジェクトだと思いますが、移住・定住の他に交流人口を増やしていくことも大切な要素と思えます。芸備線の利用促進とあわせて、例えば、駅周辺の遊休農地を借りて市民農園を整備し、週末に広島市内から芸備線を利用して来ていただき、空き家に泊まり農作業して過ごしてもらうなどのアイデアをプロジェクトに盛り込むことも一案だと思います。</p> <p>今回の小原創生プロジェクトには地域で創意工夫したものが沢山盛り込まれていると思っております。ご意見にありましたように外から来られた外国人を含めた観光客に対する交通面や宿泊面での課題については大変重要ですので、貴重なご意見として受け止めさせていただきますと思います。</p>
委員	<p>2 点ほどあるのですが、先ほどから吉長会長も言っておられるコミュニティの大切さと教育の問題や子育ての大切さがたくさん話題に出たと思いますが、一方で安芸高田市さんは、人口減少の対応として、学校の統廃合を進めておられる。学校というのはコミュニティのシンボルとして非常に大切なものであって、その学校が無くなるとコミュニティの機能が著しく弱くなるということもあり、市の立場から考えると非常に難しいことをやられていると思うのですが、その辺について一つお聞きしたいのと、もう 1 点は、後から JA さんに聞きたいと思っていたのですが、学生が大学を出て地元に戻らないというのがあり、私もそう感じていて、田舎から出てきたという学生に地元に戻るのかと聞いたら、帰らないと言いました。どうしてかと聞くと、働く場が無いと言いました。働く場が今は人手不足と言いますか就職が有利で、ちょっと背伸びをして、東京の大企業とか広島市内の中心部でもすぐ見つかるわけで、私は農業をお進めしているのですが、学生達はあまり興味が無い。私の家の周りの畑で広島菜を作っていて、20 代の人が私の知っているだけでも 4 人ぐらいがやっているの、安芸高田市さんはすごくお米も有名だし、ねぎも有名だし、若者の就農支援を積極的にやっておられるのかをお聞きしようかなと、この二つです。</p>
会長	<p>ありがとうございました。学校の統廃合の事と若者の就農の件でしたが、どなたかお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>学校の統廃合につきましては、ビジョンの 23 ページにもそのことが少し触れてありますが、小中学校への影響として人口減少に伴う児童が減少するという事は早い段階から予測されていたところであり、安芸高田市においてもこうした将来展望を見据えたうえで小学校の統廃合について学校規模適正化推進計画として取りまとめております。</p> <p>コミュニティ機能の衰退に繋がるという視点も確かにご意見の通りだと思いますが、一方で、極度の小規模化による教育面への影響や集团的行事や放課後の部活動といった面への影響もあるということで、総体的な将来的展望の中で取り組みがされているということ</p>

	<p>でご理解をいただきたいと思います。</p> <p>それと、若者の就農支援については、JA さんとも十分に連携をとらせていただいて、様々な施策を実施しております。例えば、先ほど地域を離れて大都市の大学へ進学している実態の説明がありましたが、移住・定住で迎えることも大切ですが、一方で地域に残ってもらうことも非常に大切だと思います。そういった中で、農業後継者の育成ということについては、今、JA さんと市で基金を積んで広島県農業技術大学校に高校卒業後、将来、農業を目指す生徒を対象に就学資金や生活資金を支援しております。卒業後数年間は JA で研修生ということで研修を積んでいただき、最後には農業後継者として自立してもらう、そういった取り組みも現在行っております。その他にも様々な就農支援策を講じているところでございます。</p>
<p>委員</p>	<p>関連して、広島県農業学校の案内があるかを学生に聞いてみたら、安芸高田市出身の子や北広島町出身の子がいますが、地元に応じた企業があるか知っているかと聞いたら、結構知らないのです。農業にもあまり関心が無い。是非、大学のキャリアセンターに、農業学校の求人案内とか、地元の中小企業の求人の案内を積極的に出していただいたら、Win-Win の関係になるのではないかと感じしております。</p>
<p>委員</p>	<p>今の農業技術大学の関係でございますが、先ほど話をいただきましたように、支援ということで、北広島町を含め、大体年間 3 名から 4 名ぐらいは支援をさせていただいております。ちょうど 4 年・5 年目というところで、中には地元で就農された方もいらっしゃいますし、まだ農協の方で研修されている方もいらっしゃいます。やはり農業へ就くということは大変勇気がいることでありまして、学校を出てすぐに 400 万・500 万の収益を上げていくのは大変なので、色んな所に一旦出ておられる方もいらっしゃいますが、少しずつ実を結んでいるのではないかと思います。また、学校への紹介ということですが、農業技術大学ではセミナーをされていますので、そこへ積極的に参加して農業の宣伝もしています。</p> <p>折角ですので、資料のことをお願いしたいのですが、19 ページの先ほども出ました担い手確保と就農支援の部門ですが、今言われましたアグリビジネス科と農業技術大学との連携というところも書いていただいておりますが、農業はやはり女性の方もかなり力を入れておりますので、その辺を少し主な取り組みの中に入れていただいて、やはり農業というのは実際には女性の方、特に家庭を持っておられる方でもできますので、そういった支援も書いていただければと思います。</p> <p>それからもう一点、40 ページになりますが、農業生産の振興のところございまして、その具体的な施策として 12 番のところ主な取り組みが色々書いてあるわけですが、その一番下の重要業績評価指標 KPI で、その指標が産直市の販売額ということで目標を上げておられるわけですが、その主な取り組みの中に産直市のことが書いていない。取り組みの中には産直市のことを書いた上で、その販売額を目標にさせていただくことが資料の作り方ではないかと思いますので担当部の方と協議いただきたいのと、併せて 43 ページにあります外貨を獲得するという中で個性ある農業の展開、一番下でございますが、どちらかといえば産直市の関係はこの外貨を獲得する方策の方になるのではないかと思います。逆に、ここにある堆肥センターでの取り組みは、地産地消の方に入ってくるのではないかと資料の関係で思いますので、作成する中で協議をいただければと思います。産直市に関しては、特に広島県は農業者の平均年齢が 70 才を超えているという、大変高齢化した産</p>

	<p>業でございます。安芸高田市でも 71 才・72 才が平均年齢になっていると思います。県下でも 1 位が江田島市、次いで 2 位が安芸高田市という状況になって、大変高齢の方がしておられるというのは、これを逆手にとりまして、長くできる、元気な農業 70 になってもできるという表現をして、例えば 80 でも 90 でも安芸高田市におれば農業をしながら元気で暮らしていけるといった、先ほど若い方の PR もありましたけれど、逆に高齢な方も住みやすい地域ですと、定年後は安芸高田市へ帰ってゆっくと、年金と少し稼ぐだけで生きていけますよと、こういった生き方も安芸高田市ではできますよというのも良いのではないかと思います。徳島にある上勝村の奥さんが 1 千万も 2 千万も稼ぎますが、コンピュータを駆使するところまではしなくていいと思うので、本当に食べてゆっくと楽しく、先ほどのコミュニティと一緒に楽しく生活できる理想の楽園ではないですが、最後は安芸高田市でゆっくと人生を送っていただきましょうという方策も一つの手ではないかと思います。私の個人的な思いで、こういう戦略というのも手ではないかと思いますので提案をさせていただきます。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。外貨の方に入るとかの仕分けについては、再度事務局で整理していただいて、非常に整理した結果が今の資料になっていますが、今の意見を反映していくチャンスはありますので、お願いしておきましょう。今日の議題は一つだけなので、是非、一項目ぐらいは一人最低お話していただけたらと思います。新しいことではなくても、今までに出たことでも結構ですので、是非お願いします。</p>
委 員	<p>木材の活用、地域材の活用、これを促していく、循環させていくことをすれば雇用も生まれるということも出てきます。ただ、林業の現状を言いますと、業として成り立っていないのが現状なので、ここら辺りを自然の豊かさを感じるということからも、例えば薪ストーブの活用や、ペレットの活用をしっかりと普及させて薪を使う。薪を使うにしても、各家庭で子どもさんと一緒に山に行って薪を採る等ができていけば、将来的に故郷を思う、自然の大切さ、自然に親しんでいたと感じていくのではないかと気がします。最近、木材を燃料として活用するというのも、ある程度は普及してきていますが、現状はそれを成り立たせるにはかなりハードルが高いということになっています。ですが、こういうことを言っても前に進まないわけで、行政も木材を活用する方向性のある程度示していただければ違ってくるのではないかと思います。</p>
会 長	<p>大賛成です。ただ林業が業として成り立っていない現状が厳しい状況ですが、心の豊かさに関係してくるので大賛成です。大阪ガスのエネルギー・文化研究所が毎年 CEL という雑誌を送ってくれて、ここ数年、火のある生活というタイトルが結構多いのです。その中で女性が火育、火を生活の中に取り入れることによって、子どもの豊かさを育むということを書いている方がいらっしゃって、それを読んだところでしたので、そのお話をされたからドキッとして、いきなり大賛成と言いましたけど、そういった視点からスタートするのが大事かもしれません。確かに、産業の視点と注目しがちですが、そういう意味では非常に大事なことで、生活の実体験、環境が非常にいい視点だと思います。政策の中でどこに書くかという、なかなか難しいところですが、言葉として「火育」というのは入れていければと思います。</p>
委 員	<p>働く場を整えるということで、新入社員の研修をさせていただいていますが、先ほどから話がありました大学へ進学したら、地元で働く場が無い、帰ってこない人が多いということですが、実は、中小企業・小規模事業者の方と話す機会がありましたけれど、ハロー</p>

	<p>ワークに求人が出されているが申し込みが無い。地元でどういう企業があって、どんな人を求めているかを、もっと出て行った子ども達に紹介しなければいけないのだなという、さっきいいヒントをいただいた気がしました。そういう受け入れ企業もしっかりしなければいけないが、情報発信もしっかりしなければいけないと思いました。</p>
<p>会 長</p>	<p>横文字で言えばインターンシップを大学の就活の3年生・4年生だけやるのではなく、最近、私の知っている小さな外資系の会社ですが、今年インターンシップを受け入れたのが、小学校の4年生か5年生を受け入れたみたいですが、いきなり小学校から送り込まれてきて断れない。企業の方も担当者がいないのですが、子ども達が来ることによって自分達がそこで担当者を決めて、それが実は企業の方も活性化すると言っていました。生産性が上がるとは別で、組織が非常に穏やかになった。それで子ども達がどう見ているのかということ企業側の方もメリットがあると言っていました。すごくインターンシップがもっと子どもの時から、大体、家族でもそうですが、お父さんが何をやっているかわからない。職場参観を子どもがするということが最近多くなってきましたが、是非、子どもさんの時からインターンシップを取り入れて、大阪のキッザニアに行くと、何種類かの就業体験ができるテーマパークがありますが、新聞を見ていると子どもにも人気ですが、お年寄りにも人気があるということでした。集客力がキッザニアは子ども以上に定年退職した人で、これからもう一回仕事をしてみようかとしている方が、二耗作目とか新しい体験を試みようかという人もキッザニアに入所している。仕事体験はツーリズムになっている。半分体験型のツーリズムの位置づけになっているので、商工会のところで固く言えばインターンシップだけ、もっとツーリズム的なところでやってもらい、広報は行政でしっかりやってもらうという感じがいいのかなと思いました。</p>
<p>委 員</p>	<p>企業の現状を言いますと、非常に人手不足で困っているという状況に陥っています。これは安芸高田市に限った話ではなく、近隣の三次や東広島、広島市も人手不足に陥っていて、どこで求人をしても集まらない。結局、ここに若者がいないとか労働者がいないというわけではなく、日本全国でそういう状況に陥っていると思うので、ここだけの話ではないのですが。これと今回の話は切り離してお話したいと思いますが、企業は地域が活性化してくれないと結局元気になれない。今のお話の中で、色んな施策を考えておられて沢山あってこれを全部やらないといけないとは思いますが、あまりにも沢山ありすぎてピンボケしていて、先ほどアンケートで半分の間人が帰ってこないと言っているのだから、それを前提に施策をやらないと、言葉は悪いのですが、あれもやったこれもやったバラマキで可能性のあるやつをやっているのだからいいでしょという風に聞こえてしまう。だから、もっと絞り込んで優先順位を決めて集中させる。今思うに、悪循環に陥っている。日本全国でここだけではなく、全部悪循環に陥っていて、多分みんな考えていることは一緒で、これは国がそもそも基本を出しているから、それに同じような流れで考えられるようなことが全部出てきているのだと思います。だから余計ぼけて見えるのだと思います。これを皆がやっとうまくいっていない、全国で。それを右に倣えで安芸高田市がやっとうまくいくとは思えない。何を言いたいかと言いますと、安芸高田市の強みは何ですか。一回ここで立ち止まって、他に無いところで勝負しないと、みんな転げて落ちていくようになると思います。何が良いか正直私にも分かりませんが、思い浮かぶに、よく聞く言葉で、安芸高田市は高齢化が日本で一番進んでいるとかいう話を聞くのですが、それは売りなのではないか。日本で最先端をいっているのであれば、ここで高齢者が沢山いるのなら、そ</p>

	<p>の町にするというのも一つの手かなと思います。若者を引っ張ってこようと言っても、アンケートの中で、もし本当に若者達が住みたくないのなら、高齢者なら引っ張ってくるのであれば、先ほどの農業の話もそうですが、確立が高いのであればそこから先に人口を増やしてしまって、今のこの時期に、もし人口が増えたとしたらニュースになります。しかも高齢者が、今は3分の1だけと半分以上が65才以上だと。そしてその人達が幸せに暮らしていける環境ができていたとしたら、じゃあ安芸高田市に60才を過ぎたら行こうかと。それで人口が増えたらお金がどんどん落ちるわけで、生きている限りは必ず何かを食べて何かを使うわけですから、そうしたら企業が高齢者向けの福祉関係やデリバリーが来てくれるかもしれない。私は市の味方をするわけではないですが、市は本当に色々なところで目配しながらやっている。でも、どこの市も同じように悪循環に陥っていて止められないのです。それなのにあれをやってくれ、ここでこういうのを作ってくれといったところで、無い袖は振れないわけで、お金が無いので無理なのです。だから、観点を変えて優先順位を決めて、そこに思い切り、時間も無いわけで、集中して順番を決めて、私の考えは人口が増えれば、ある程度悪循環が、もしかしたら止まるかもしれない。逆転は出来ないけどせめて止めるぐらいのことが幾つか出てきたら、そこは今度は自然に流れていくので、まだ悪循環しているところを優先順位を決めて止める。まず、止めるところからやらないと、このままずっと悪循環に陥ったまま。企業は、ちょっと安芸高田市は便利が悪いし買い物をするといっても無い、お昼ご飯を食べに行くところが無いとなると、企業ですからサヨナラということも有り得る。皆で本当に何が必要かをもう一回確認された方が良いのではないかと個人的に思いました。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。市役所はすべてのことをしなくてはいけない。そういう意味では総花的になっているかもしれません。そうは言っても、リーディングプロジェクトで優先順位をつけているのですが、この町の本当の課題・特長なのかをもう少しメリハリつけて、表現の仕方をさらに検討していく必要があると思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>リーディングプロジェクトに基づいた施策で、少し検討いただければと思うのが、3点ほどあります。まず1点は、先ほど小原地域に向けた取り組みをされているというのがありました。運営なり地域の取組をするとなれば、それを支える人材、そうした育成というのが安芸高田市の中でシステムのいるのではないかと思います。人材を育成するシステムを施策としてこの中に打ち込んでもらえればというのが1点です。</p> <p>それから、集落そのものが高齢化によって本来の基地機能が集落の機能を保てなくなっている状況があります。これは10年、10年ももたない5年という形の中で、ひとつの集落だけでそういった機能を保つことができなくなるが増えている状況です。中山間の直接支払いの事務などもなかなか出来ないというところもあるし、行政嘱託員もなり手がいないという、集落そのものの機能、やはり定住を進めるのであれば、その受け皿は集落なり地域ですから、住みやすさをフォローするための事務であったり機能であったり、そこらをサポートするような中間支援機構的な取り組みも今から視野に入れながら、取り組み施策をする必要があるのではと思います。それが有ると無いとではかなり違うのではないかと思います。中間支援組織的な視点もこの中に入れていただければ、住みやすさというものが出てくるのではないかと思います。</p> <p>もう一つは、先ほど企業の話がされましたが、具体的に今、取り組みが進んでいます。工業会、商工会、地域振興事業団も含めて、安芸高田市の企業人材を育成しようというこ</p>

	<p>とで、コンソーシアムの組成をして具体的な取り組みを展開しています。企業人材、中小企業さんそのもので、新人なりそういった人材育成をするということはなかなか難しい、1社では難しいということで、オール安芸高田で賛同される企業さんに寄っていただいて全体で人材を育成しようと、人材の育成をするということは、企業の体力を高めるということ、それによって雇用が確保できる、雇用が確保できると定住という形に結びつきますので、そういったコンソーシアム組織が継続的に安芸高田市として、これは全国でもあまり例が無いのではと思いますが、一つの大きな特色だと思います。こういったコンソーシアム機能そのものが継続的にできる、そういった取り組みを続けてやっていただけたらと思います。国勢調査でみると、広島市から毎日2千人以上の方が安芸高田市に通って、実際に就労があります。2千人の方が広島からこの安芸高田市に働きに来られていますので、ちょっと安芸高田市で住みよさを見出すことができれば、十分ここで住めるという環境があるのではないかと思います。そういった視点を今回の戦略の中に打ち込む形があれば、少し先が明るく見えるのではないかと思います。</p>
会 長	<p>おっしゃる通りです。目から鱗です。2千人の方が入ってくれば、それこそ目標達成になりますね。オール安芸高田でコンソーシアムで、公共と連携しながら持続可能なものにしていくことが重要であると思います。</p>
委 員	<p>安芸高田市では神楽を押しっていて、私の友達で、地元は向原なのですが、地元には神楽が無く、全然神楽を見に行こうという話にならず、見に行ってもよく分からなくて、友達と一緒に見に行ったことが無いのですが、美土里町の方と話す機会があり、どうしてここで働いているかと聞くと、神楽がしたいからこっちで働く場所を見つけたという方がいて、そんな方がいるのだと思い、まさに地元に誇りをもって神楽がしたいからここで働けるところを探して働いているという方がいたので、同級生も大体出ていく方が多いので、残りたいと思うものがあるのだなど、住み続けたいと思う市民44%というのは確かに少ないのですが、その一つのきっかけに神楽があるのなら、無い地域で入団体験をやってみるのも面白いのかなど、知ってもらわないと興味が持てないので、そういったのがあると良いなと思いました。それと、子育てのことで、町の人には田舎にとっても興味があるのかなと思いますので、田舎学校が流行っているか分かりませんが、テレビで田舎体験をやっていたので、まさに安芸高田市は田舎の地域があるので、そういった広島市内や県外から呼び寄せることができないかなと思いました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。人口を増やすには、観光メニュー、観光地・世界遺産以外にも色々なテーマが色々な切り口であると思います。先ほど、神楽をやりたいからここに住んでいるということでしたが、心の豊かさが先にきていて、そのために働いて物の豊かさを充足させている、そういうライフスタイルが若い世代に多くなりました。</p>
委 員	<p>皆さん良い意見を出されていて聞いていたのですが、中高一貫校の話や1人目から何とかしたいというのは、前回の市の総合計画のときにもあったと思いますが、中高一貫校、子どもをしっかり育てたいというのは皆さん一緒なのだと思います。それが、グラフを見て思ったのですが、資料のグラフの自然減の要因の出生率のところ、絶対数が少ないので増えないのだと思いますが、一番多く産むのが庄原市、その次が三次市、それから北広島町、その次が安芸高田市、全国より全部ずっと上なので、子育てをしたい、産みたいとか何か良いところがあるから子どもが増えているのではないかなと思いました。1人目からもう少し大事にしてくれる、3人目からではなくて、1人目からなんとかなるような市</p>

	<p>の対策をしてもらえればと思いました。それから、土師ダムの公園ですが、皆さんの力を借りようというので出ていたのが、高齢者の方に月曜から平日、皆さんが働いている間は公園の整備をしていただいて、土日・祝日は保護者の方が子どもを育てて遊びたい時に、しっかり公園を使う。また、平日は高齢者の方に公園を整備していただくという連携を試みたらという意見を聞いたことがあります。縦割り政策だと思いますが、管轄が違えと言われ、市役所の方が中を取り持たれるともっと良い形がとれると思いました。同じく土師ダムで、ご飯を食べるところがあるのですが、そこを利用して日曜日に法事が行われていて、日曜日に楽しい家族サービスで来たのに、そこでチーンという音と黒い喪服で出てこられるのはいかなものかという意見を聞きました。明るい安芸高田市を作りたいと思うのであれば、小さいことですが。明るいということで、JRの入口、広島市から1時間なので、高速道路を乗ってくると美土里町のバス停、高宮町のバス停に沢山の車を置いて皆さん出かけられているのですが、夜真っ暗の中を帰ってきて、鹿に迎えられ、猪に迎えられ、そういったことはお断りだと思うので、せめて木を切って明るくするとか、お金をかけなくても出来ることだと思います。また、吉田町の方が言われていた同じような意見で、広島交通さんは大林車庫までバスが来るので、せめて土師ダムの入口まで来ないかなと、そうすると土師ダムのところに車を止めて通勤もできるようになるので、そうすると資料に年間200人の方が毎年出て行きますが、何とかして、勤めは広島市でもいいので、誘致までしなくても情報を取りに行くとか遊びに行くのは広島市でもいい、買い物も広島でいいので、自由に行き来ができる場所があればもっと帰ってくると思います。もっともっと入口を明るくするというのが良いと思います。安芸高田市で全部なんとかしようというのではなく、外の力も少し借りることも良いのではないかと思います。</p>
<p>会 長</p>	<p>玄関口を色んな意味で明るくするとか、確かに法事が日曜日に行われているのはどうしたものでしょうか。私が知っている新潟のある市長さんとは、かつて国交省の公園の担当の人で、公園には屋根をかけてはいけないらしいのですが、新潟では雪がすごく多く、子どもが冬の間遊ぶ場所が無い。公園に屋根を付けて冬場でも子ども達が遊べるようにする、また、これは相談があった鳥取県の全国にあるデパートを集客力がある施設を改造して何かをやりたいと言われたので、私が提案したのが公園デビュー同様にデパートにデビューしたらどうかと。たまたまうちの娘が子育てをしていて、ずっとどこかに出かけたいけれど、子連れで行くところが無い、せいぜい雨の日はイオンモールだと、デパートにデビューして子どもがちゃんと遊びながら、自分はネイルに行ったり美容室に行ったりするような、子育てのお母さんの支援をしてくれたらもっと良いのにねと、なかなか男の目線ではできない、当事者でないと分からない。子どもさんのネットワークで遊びに来る若いお母さんに聞くと、皆行くというんですね。公園にデビューすることもあるけれど、デパートにデビューしたいと。ここだとゆめタウンさんがそうしてくれるとか。鳥取県の例だと、中心市街地の整備には、民間のデパートに行政のお金が出るのです。そういう風に整備するやり方をすると、デパートの方も集客力が上がり、幼児を連れてお母さん達が就学前のデビューができます。</p>
<p>委 員</p>	<p>最近3つのことに驚いています。一つは産直市ですが、広島の特に可部の方から沢山買物に来られて、この前あまりにも騒々しいので、どこから来られたのですかと聞いたら可部ですと言われました。何を目的に来られたかをお聞きしますと、安くて新鮮で、花と野菜が良いのだと。そのために、主人は広島に服を買いに行っているが、私達女性は団体</p>

	<p>で、何名か乗り合わせて野菜と花を買いに来ているという状況がありました。</p> <p>それからもう一つは、土師ダムの話が出ましたが、遊具がワイナリーの100分の1ぐらいの規模ですが、土曜日に行ってみてください。すべり台を待つのに15分ぐらいかかりました。孫が来たので連れて行ったのはいいのですが、こんなに待つ遊具は無いと怒られたぐらい流行っています。そこをなんとか収入が入るような方法が無いかという課題を突き付けています。</p> <p>第3件目は、今は広島に出るよりは、お仕事の時間は八千代が渋滞なのです。困っておられます。八千代支所に行かれる方や吉田方面に通われる人が、長いときは何十分と待たなければ通れない。旧道に回られても、旧道も渋滞している。これから考えていかなければならない問題だと思っています。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。皆さんから意見をいただきましたので、これをまた事務局の方で少し吸収してもらおう形で、第3回目に繋いでいただければと思います。もとより、この第2次安芸高田市総合計画のタイトルは、「人がつながる田園都市安芸高田」となっていて、もう少し人をつくるとか外に出た子ども達が帰ってきたときに人が繋がったハンモックがあれば、そこに帰ってきたときに横になれるわけで、そのネットワーク、人のネットが無い限り心の豊かさなどは出来ないと思います。そういう意味で、人が繋がるということのタイトルを皆様に確認いただきたい。人口ビジョンはデータとしてありますが、総合戦略の骨子の中で、今回の総合戦略の基本となるインフラは、やはり人が繋って人が育っていくということが、そのインフラだと思います。そこに色々な施策が乗っかるとなると、人が繋がるプロジェクトは後ろの方に書いてあるので、特徴を持たせるとすると、実は全面にあって、これがスタートしてこの上に人が繋がることによって観光や空き家がこのように改善されるとか、心の豊かさができるとか、色々な事が関係するのではないかと思います。そういうことを感じました。無理難題を事務局に投げかけている訳ですが、これがうまくいくかどうかは別として、今日は皆さんの忌憚のないご意見をいただき、本当にありがとうございました。</p> <p>私の方からは、進行をここで終わらせていただいて、最後にもう一度副会長から締めのお言葉をいただければと思います。よろしくお願いします。</p>
副会長	<p>大変長い間、総合戦略のためにそれぞれの立場の大変良いご意見をいただき、事務局の市とされても、部長さんをはじめ一生懸命メモをされておられましたので、それが中に加わった総合戦略の骨子が、次回で纏まるものと期待しております。大変長い間ありがとうございました。</p>
事務局	<p>4. 事務連絡</p> <p>本日は、色々なご意見をいただきありがとうございました。戦略の方に反映できるものはさせていただいて、また、検討の必要なものもあろうかと思います。</p> <p>事務連絡となりますが、次回の懇話会は、9月を予定しております。早めに日程を調整しまして、ご案内をさせていただきます。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>5. 閉会</p> <p>それでは、以上で、第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進懇話会を閉会させていただきます。</p> <p>本日は大変有難うございました。</p>